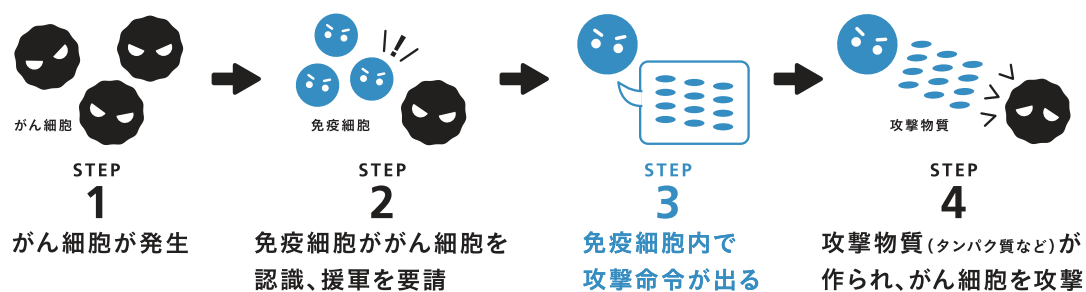


マイクロアレイ血液検査

1回の採血で膵臓、胆道、胃、大腸を遺伝子レベルでチェック。
「今」「がん」があるのか無いのかを判別する検査です。

【検査の原理】※イメージ

検査機関では以下のような原理を利用して「がん」の有無を判別します。



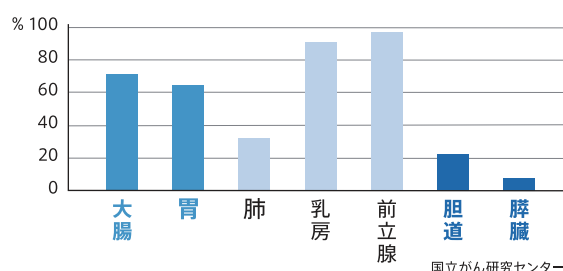
この段階で発現する遺伝情報の伝達物質(mRNA)を調べることで、がんの有無を判別。

対象となる消化器系がんの場合、mRNAの発現に特定のパターンがあることが分かってきています。
最終判定を出すまでに、2,665個のmRNAを複数の角度から解析し、
その組合せを詳細に検討していくことで高い検査精度を示す検査となっています。

【本検査で対象となる4つの消化器系がん】

早期発見が難しく生存率が低い「膵臓がん」「胆道がん」
罹患数が多い「胃がん」「大腸がん」

●がん5年生存率(2006年~2008年診断例)



●がん罹患数予測(2017年)

順位	部位
1位	大腸
2位	胃
3位	肺
4位	乳房
5位	前立腺

国立がん研究センター

早期に発見・治療することで生存率は向上し、
治療に伴う様々な負担も軽減することが期待できます。

つまり、定期的ながん検診が一番のがん対策と言えます。

よくあるご質問

Q. 最終的な検査結果はどこを見ればいいのでしょうか？

「判定結果」及び「リスク評価(有無判定)」をご確認ください。

なお、最終判定に至るまでのフローチャートや各評価も別頁に記載しておりますが、「陰性」「±」「陽性」「偽陰性類似」「偽陽性類似」の表記はあくまでも解析の途中経過を示しています。

その他、詳細につきましては医師にご相談ください。

Q. 遺伝子情報が他人に知られる危険性はありませんか？

本検査によって、ご本人やご家族を特定するような遺伝子情報が知られる事はありません。

Q. 検査結果はどのくらい信頼できますか？

臨床研究では、消化器系がんに対する本検査の感度と特異度はいずれも90%以上でした。

【参考論文】

Differential gene expression profiling in blood from patients with digestive system cancers.
2010, Biochem. Biophys. Res. Commun. 400(1):7-15.

Q. 結果が陰性でしたが、将来的にがんが発病する可能性はないと考えて良いのでしょうか？

この検査は採血時におけるがんの有無を判別する検査です。したがって将来の”がん”の発症を予測するものではありません。

医師とご相談の上、概ね1年毎の定期的な検査をおすすめいたします。

Q. 結果が陽性だった場合はどうしたらいいのでしょうか？

検査結果を参考に医師とご相談の上、精密検査を受けられる事をおすすめいたします。

Q. 検査結果に影響を及ぼしかねない要因は何か考えられますか？

病歴や投薬中の薬によって正しい結果が得られない場合がございます。

詳しくは医師にご相談ください。

Q. 自宅など、医療機関以外で採血は出来ないのですか？

主に以下の3つの理由から医療機関のみでの受診となります。

- ・本検査の採血は法令で定められた医療行為であること。
- ・検査結果に影響を及ぼしかねない血液(検体)の保存状態の問題。
- ・感染症などの安全性の問題。

